

平成23年11月24日

医療法人誠愛会

原町中央産婦人科医院院長

高橋 亨 平

患者さんとお世話になった皆さんへ

I'LL BE BACK

晩秋の風、梢をたたき、落ち葉舞う季節、ひたひたと迫る冬の足音を聞きながら、共に戦ってくれた多くの戦友達、支援と励ましの言葉を頂いた多くの人達のことを、今、走馬灯の様に思いを廻らしています。心強かったあの時の一言、行為、全てに感謝、感謝の念で一杯です。ここまで頑張れたのは本当に皆様のお陰です。ありがとうございました。

しかし、一方で思えば、今の日本は正しく「獅子身中の虫に泣く」と云う状態で、主が滅びるまで虫は食い続けるという実態も分かりました。取り返しのつかない所まで来てしまった状態で、この大きな東日本大震災・原発事故が起きました。このことは本当に悲しい出来事ですが、神が与えた大きな試練の場であるかもしれません。現場の人々は身を粉にして、日々戦い続け、へろへろの状態の中でも、何とか頑張れたのは、全国からの励ましと支援、応援があったからだと思います。ただ気になるのは、そんな中でも虫達は平然と増殖し続けている事です。そんな人生あっていいのでしょうか？ 国民の幸せとは何だろうか？ 早く市民、現場の目線に立つ事の重要性に気付いてほしい！

意味は全く違いますが、読売新聞に報じられたてしまった様に、私も心中の虫（癌）に侵され6月から戦って来ました。直ぐには、手術出来ない状態でしたが、福島医科大学消化器外科にて抗がん剤の治療を続け、10月で1クール終了、1カ月休薬し体力の回復を待って、12月2日に入院手術を受ける事になりました。

南側は原発で通行出来ず、迂回路も大変で袋小路となったこの地区に、産婦人科が無いと市民に更なる不安を与えると、案じておりました所、医師不足で大変な中、福島医科大学産婦人科の藤森敬也教授から、南相馬市の窮状から応援医師を派遣するとの有り難い言葉を頂き、これで原町中央産婦人科を休診に

せず続けられることになりました。又、亀田総合病院の産婦人科部長鈴木真先生からも、何かあったら何時でも応援に行くからゆっくり休んで下さい。との心強い言葉も頂きました。

患者さんの皆さんには、少し不便をかけますが、福島医大の先生方が私の代わりに守ってくれますので、ご安心下さい。年末には多分元気な姿で帰ってくるつもりです。冬は気温の変化が激しいので油断しないよう、又、薬はきちんと服用して下さい。

遣り残したことがまだまだ多く、これからと言うときに残念でありませんが、道筋は造ったつもりです。医療問題も少し前進し、環境問題は除染研究会が社団法人となり、一人歩きできる様になりました。そしてそのスキルアップも凄く、その内容データの分析は国際学会に出しても恥ずかしくないものと思っております。

次のテーマは線量「限りなく0の家」を造り妊婦、子供達の希望の家造る事でした。ヒントは5月から半年間、フィルムバッジで空間線量を測定し、高い人、低い人の住宅環境を調べたところ、第一のヒントがありました。又、予てより、飯館の学校の校庭で実験しようと思っておりましたが、許可が下りず出来なかった事がありました。しかし、延びていた地方選挙の帰り、線量計であちこち調べたところ、実験予定に同じような場所を見つけ、大きな発見でした。コロンブス卵の様な、1次方程式で解ける。これで夢が叶えられると思った瞬間、これが第二のヒントとなりました。後は実行あるのみです。

それから、禁句のように思われていますが、子供達は大人よりセシウムに対して強い事も分かりました。傷ついた遺伝子の修復能力も、尿中の排泄能力も、からだの組織別の半減期も、数段成人より能力が高いのです。これらの事も検証していける環境も整いました。後は妨害させないように守ってやる事です。

一番近い基地、南相馬から攻めて行けば、双葉地方にも夢があります。一番早い実験は、常磐高速道路を実験しながら開通することです。これは、コロンブスの卵の様に簡単で、足し算と引き算で、解決出来ると信じています。直ぐに開通してください。

早く次のテーマに進みたい！！ 皆さん少し休みます。

ILL BE BACK !!

